

2020年度 自己点検・評価シート

基準7 学生支援

* 各組織における新たな目標または、「2019年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。
* 2019年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:評価の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2020年度期首時点)	①2020年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2020年度の取り組みとその成果 ②2020年度の取り組み後の問題点(課題)	自己 評価	根拠資料	内部質保証委員会 所見(助言)
<p>●学生が学習に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう、学生支援に関する大学としての方針を明示しているか ○大学の理念・目的、入学者の傾向等を踏まえた学生支援に関する大学としての方針の適切な明示</p> <p>①</p>	<p>[現状説明]学生の多様な個性を尊重し、学生一人ひとりが自らの将来像を描き、それに向けて学習その他の諸活動を行うために必要なさまざまな支援を行い、すべての学生が自立した社会人・職業人として社会に巣立っていけるよう、全学的かつ総合的に努力を傾注することを目的とした「学生支援の基本方針」をホームページや学生手帳で明示している。また、この基本方針に基づき、毎年度、重点課題を定め年度ごとにその対応について総括している。 2020年度の重点課題は、初年次教育に関連した東経大マッチング(留年及び休退学防止)と上位層への対応を含めた重点課題としての「初年次教育強化」とした。 入学時の対応が休退学や留年に大きく影響するため、初年次教育への対応をメインに昨年度に引き続き「初年次教育」の一環としての新入生歓迎プログラム「学びのサポーター」でチームビルディングとファシリテーションの事前研修とともに新型コロナウイルス感染症対応の中でオンライン等を活用した初年次教育等について対応する。</p> <p>[長所・特色]本会議は、学生委員会、学生相談委員会、人権委員会、国際交流委員会、就職委員会、全学教務委員会、学習センター運営委員会などの各委員長と関係部課長で構成されており、学生支援の政策立案、実施等について教学を含む各方面の連携や協議を行うことができる。また、重点課題については、各年度で総括し、更なる対応や改善を図っている。</p> <p>[問題点]①初年次教育については、単年度の対応だけでなく、年度を越え継続した支援体制が必要。 ②改善にあたり学生支援会議だけでなく、各学部教授会を含む教学面での協力がなければ効果は弱い。 ③新型コロナウイルス感染症拡大により、入学式、新入生オリエンテーションが中止され、学生手帳を含むオリエンテーション配布物のみ郵送により送付された。予定されていた初年次教育の一環としての新入生歓迎プログラム「学びのサポーター」でチームビルディングやファシリテーションの事前研修、生協ウェルカムパーティー、教職員対象の初年次教育講演会・全学FD講演会及び特待生懇談会等も中止となった。 今後は、新型コロナウイルス感染状況下での新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン(文部科学省)における学生への迅速かつ十分な情報提供ときめ細やかな相談体制(電話・メールによる相談、休退学相談、就職活動相談、メンタルヘルスの相談対応など)や初年次教育への対応が課題となる。</p>	<p>①休退学率・留年率の改善、学生による学生のためのピアサポートの拡充。</p> <p>②休退学率・留年率の改善(前年度比較)、特待生の継続状況の改善(前年度比較)、初年次教育の実施状況。</p>	<p>①◆2020年度の休退学率・留年率は2021年4月以降に判明する。なお、新型コロナのため、休学・退学の申請時に学生課担当者や学生相談室カウンセラーの同席による面談は、電話や郵送対応となり、休退学・留年に大きく影響する初年次教育の一環とした新入生歓迎プログラム「学びのサポーター」でチームビルディングやファシリテーションの事前研修、教職員向けFDの一環とした初年次教育講演会も中止された。今年度は、対面での対応が限られたため、初年次教育としてオンラインによる2020年度入学者オンライン交流会(9/17)を開催し、53名の希望者の内、42名の参加と13名のファシリテーター学生の協力により非常に満足度の高いイベントとなった。奨励期間中に実施されたオンライン奨励1年生交流会(10/30)については、218名の新入生の参加申し込みとファシリテーター42名の申込があったが、一部の学生のSNS上でのネガティブ投稿が学生間に広がったため、当日の参加者は減少したが、参加学生の満足度は高かった。2021年度入学者対象の交流会「ウェルカム・パーティー」を3月(年内入試合格者は3/3、一般・共通テスト入試合格者は3/12に開催予定)にオンラインで実施するために必要なファシリテーション・スキルを身に付ける研修会が実施され、12/23の研修では、最も出席率が高く31名の学生が参加し受講態度の質も高かった。 今年度の新入生歓迎実行委員会は、新歓活動が制限され、クラス会の運営など新歓活動を支える1年生のオリエンテーションへの参加が厳しい状況にあり、来年度の新歓活動は、オンライン開催が予定されているが、大学としても積極的関与の必要性を考慮し、対応スキルを会得させるためにファシリテーション研修への参加機会を提供している。 ◆成績上位層では、入試特待生の1年次から2年次への継続率が前年度に比べ高く前々年度並に戻った。その後の2年次から3年次への継続率や3年次から4年次への継続率は例年高い水準で維持されているが、若干減少傾向にある。継続率向上の対策として、特待生と学長他役職者との懇談会や先輩特待生の勉強方法や大学の定期試験対策など、先輩からのアドバイスを受けられる先輩特待生のアドバイス会も新型コロナのため中止となった。なお、2021年度入学生より入試特待生制度(特待生枠、選考基準・継続条件)が変更となる。 ◆2019年度の休退学において、「学費負担」を理由にするものが休学・退学ともにわずかながら減少した。ここ数年一定数いた「精神面の問題」を理由にするものは休学・退学とも増加。退学数は前年度より若干減少し、「学習意欲喪失」が増加しており、勉学に興味がなく退学している。「留年率」は、年々改善しているものの、依然として経済学科の留年率が高い傾向にある。その他に留年率の高い学科は、経営学科であり、学位の質保証の関係で厳格な成績評価の数字であれば良いが、ある程度までは改善が必要である。なお、文部科学省による全国の大学等の中途退学者(2020年4月～8月)の状況調査(新型コロナにより影響を受けた学生への支援状況等に関する調査)では、主な理由の経済的困窮や学生生活不適應・修学意欲低下などにおいて、前年度と比べ大きな変化はないとの結果であった。 ②◆2021年4月には新歓実行委員会によるオンラインクラス会、ファシリテーターによる「学生生活相談」も実施する予定であるが、新入生が大学生活に適応し勉強しやすい環境づくりのためのノウハウを体験的に学ぶ機会を専任教職員等対象に初年次教育のためのワークショップ(オンライン研修)を提供する予定である。また、入学以来、対面での授業機会が少なく、教員や学生との交流や課外活動等に参加する機会にも恵まれなかった新2年生への学生支援も検討しているが、今後も新型コロナウイルス感染状況下でのオンラインの活用による交流会・研修会等の実施及び教職員による学生支援体制の継続と教学面での支援や協力が課題となる。</p>	<p>B</p>	<p>◆初年次教育:「2020年度入学者オンライン交流会(9/17)の開催について」ほか(2020.9.16学生ポータル)。「オンライン奨励1年生交流会(10/30)の開催について」ほか(2020.10.16学生ポータル)。「奨励実行委員会からのお知らせ」(2020.10.27学生ポータル)。「TKU通信第72号」(2020.11.12号)、ファシリテーター募集説明会のご案内(2020.12.8学生ポータル)、令和2年度(2020年度)予算書、初年次教育について(2021.2.3学生支援会議資料) ◆入試特待生:特待生入学状況(2020.6.24学生支援会議資料)、特待生制度(ホームページ)、Space 2021(特待生制度)。 ◆休退学・留年率:2019年度学籍異動データ(2020.6.24学生支援会議資料)、【文部科学省】新型コロナウイルス感染症の影響を受けた学生への支援状況等に関する調査(2020年10月16日)</p>	<p>2021年度は原則、対面授業実施となるため、教学との連携を十分に行い、対面・オンラインをうまく活用し、「学習意欲喪失」をさせないよう学生支援を充実させてください。</p>